日本人とロシア人の行動パターンについての考察[1)]

―ロシアの三地域（極東・シベリア・中部）におけるイメージを中心に―

ロシェコワ　オリガ

A Study on Russian and Japanese Behavioral Patterns:

A Comparative Analysis of Far East, Siberia and Central Region in Russia

Olga ROJKOVA

Abstract

This article presents a view on Japanese language learning in Russia, the state of contacts between Russia and Japan and a Russian view on Russian behavioral patterns（auto stereotype）and Japanese behavior patterns（geter stereotype）. It compares the three largest regions in Russia, namely Far East, Siberia and Central Region. The study is based upon results of questionnaires completed by Russian students learning Japanese at the three largest universities in these three regions.

The questionnaire consists of three parts: personal data, questions related to Japanese language learning and Japanese contacts, and a section concerning stereotypes of Russian and Japanese people. The latter is divided into three sub-sections: on behavioral patterns, general stereotypes and view of future relationship between three Russian regions and Japan. The questions regarding behavior patterns ask respondents to identify probable behavior by Russian and Japanese people in each different situation, there were designed to investigate respondents' views on the two groups' understanding following laws and interpersonal relations, group loyalty, interrelation between private and public, work style and perceptions of international business development. The final group of questions summarizes respondents' opinions on general stereotypes and represents a view of the future development of Russian - Japanese relations.

The results can be explained by examining features of Russian regions, types of contacts respondents and Russian regions have had with Japanese people and Japan, the quantity of contacts with Japan and needs of each region.

はじめに

近年,「BRICs」という言葉が一般的に使用されるようになっているが，これはブラジル，ロシア，インドと中国の英語表記から頭文字をとったものであり，今後大きな成長が予測される世界の四大市場を指している．豊かな資源，技術力を持ち，自由マーケットに参入したロシアであるが，リスクが高い市場であると指摘されている[2)]．しかし，インフラの整備，法律の改善，中央と地方（地域行政府）の関係の変容などによってロシアにおけるビジネス環境は改善に向かっており，ロシア市場には魅力があると言える．過去の失敗例，成功例を十分に分析し，リスクとチャンス（High Risk-High Return）のバランスをうまく

とることがビジネス成功の鍵であると考えられる．

世界にロシア市場への関心が拡大する中，日ロ関係も回復に向かい，さまざまな交流が深まってきている傾向が見られる．例えば，2003年の日ロ貿易は輸出入合計で59億8,190万ドルとなり，前年比41.8%増という大幅な伸びを示した[3]．これはソ連解体後の最高額であり，日ソ・日ロ貿易の歴史を通じ，過去2番目に大きい貿易額となった．ロシア通関委員の統計によると，2003年1～8月と比べ，2004年1～8月の日ロ輸出入額は2倍近くに増加し，その中で対日輸出は1.4倍，対日輸入は2.4倍，ロシアにおける対日貿易の割合は全体の2.2%から6%にまで拡大した[4]．

今後，日ロ関係が拡大すると期待される中で，本稿では，ロシア国内における三大地域，すなわち極東，シベリアと中部地域[5]の特徴，その相違，そして日本との交流と行動パターンを比較し，ロシア地域の中でもっとも将来性がある地域を予測する．日本とロシアの各地域との関係のニーズ，そしてソ連解体後にロシア国内における地域行政府の変容に伴う各地域と日本との接触の変容を背景とした行動パターンについてのイメージを考察する．

本稿では，極東およびシベリア，中部の三つの地域にある最大規模の大学に学び，今後の日ロ関係の発展に貢献する可能性が高い日本語学習者を対象にアンケート調査を実施した．本調査は，三つの地域における相違，日本語学習のニーズ，日本との交流の必要性の他に，三つの大学における日本人に対するイメージ，そして行動パターンを把握することを目的とする．そこで，本稿は（1）ロシア国内における三つの地域の間の相違とその理由，（2）その相違の背景になる各地域と日本との関係の比較検討という二つの課題に関して，異文化コミュニケーションの視点から取り組むことにする．ただし，本稿のみで三つの地域におけるイメージ全体を把握することは不可能であるため，三つの地域にある大学の日本語学習者が持つイメージに限る．

本稿の構成は以下の通りである．先行研究を踏まえた上で，第I節では三つの地域の特徴，そして日本との交流パターンについて考察する．第II節ではアンケート調査の概要を紹介する．第III節ではアンケート調査に基づき，ロシア極東，シベリアと中部の三つの地域における日本語学習と地域別の接触の特徴，行動パターン，日ロ関係の発展についての考えを比較対照する．最後にロシア国内，そして日本とロシアの各地域における行動パターンについて考察し，今後の日ロ関係の発展の可能性について検討する．

ロシアの各地域と日本，ならびに日ロ行動パターンに関する先行研究は筆者が調べたかぎり存在しないが，関連する先行研究としては，（1）ロシアの各地域，すなわち極東，シベリアと中部地域に関する研究，（2）ロシアの各地域と日本との関係に関する研究，（3）行動パターン，あるいは異文化接触に関する研究の三つに分けることができる．

まず（1）に関して，ロシアの各地域における経済状況については，日本語，ならびにロシア語の先行研究が多少あるが，多くは極東（北海道新聞情報研究所2003，富山2003）そして中央と地方との関係を中心にしている（荒井2003, История Сибири 1972など）．ソ連時代から，地域によって経済的な背景の差異があったが，ロシアの文化およびロシア語は全国的に一様であるとする方針から，各地域における文化的な相違についての先行研究

は見当たらない．次に，(2) のロシアの各地域と日本との関係に関する先行研究は，文化，ならびに経済交流を中心になされるが，極東と日本との関係についての研究は多少あるのに対し（Итиока 2004, Минакир 1995, 富山 2003)，シベリアと日本との関係に注目する先行研究は，独立の研究としてではなく，極東についての研究の一部にすぎないものである（富山 2003)．中部地域と日本との関係についての先行研究は，日ロ経済関係および日本とロシアの特徴（Пронников 1996, Анарина 1993 など）を中心になされている．そして (3) については，日ロ異文化接触および行動パターンについては先行研究がまだほとんどないため，本稿では日米，米ロについての研究（Hall 1977）に若干触れるとともに，理論的な研究（Smith 1999, 西田 1986, 渡辺 2002）を参考にする．

以上のように，ロシアの各地域と日本との関係について異文化接触の視点から考察した研究は存在しない．よって，本稿ではアンケート調査を実施することによってこのテーマを探ることにした．本稿は日ロ関係，そして異文化接触研究の新しい側面に光をあてることが期待される．

I. ロシアの三つの地域と日本との交流パターン

本節では，まず (1) ロシアの主な三つの地域を紹介した上で，(2) 各地域の特徴および中央と地方との関係，そして (3) 各地域と日本との交流を分析する．

ソ連時代のロシアは 19 の経済地域に区分され，これらは大きく西部地区（ウラル山脈以西のヨーロッパ部)，東部地区(西シベリア，東シベリア，極東)，南東地区(カザフ共和国，中央アジア地域）という三つの地域に分類されていた．ソ連解体後，南東地区は独立国家になり，その他のロシアの地区区分には多少変化があったが，2000 年 5 月には中央集権体制強化を目指し，ロシア全土に七つの「連邦管区」が設けられ，現在では地域区分として，この 7 連邦管区が一般化しつつある．それらは大きく西部地域（以下に中部地域とする)，シベリア，極東に分類されている．これは地域区分としては最新のものである（表 1，図 1 を参照)．

ロシアの三つの地域では経済的・政治的・地理的な格差があり，さまざまな問題点があると指摘できる．第一に，中部地域に人口 (80.5%）と工業（83%）が集中しているにもかかわらず，主な資源，すなわちエネルギー (87.9%)，原料炭（59%)，天然ガス（69%)，森林（67.4%）が東部（主にシベリア）に集中し（ロシア東欧貿易会の貿易統計データバンクによる)，シベリアは「ロシアの機関車」と呼ばれている．しかし，その資源は中部地域が積極的に利用することもあり，東部はドナーと呼ばれることもある（荒井 2003: 66)．第二に，ソ連時代の行政により，中央集権体制下における開発の優先順位は，当時から中部地域の次に西シベリアが高く，これに次ぐのは東シベリアであり，極東はもっとも遅れている．この開発の優先順位によって「地域コンプレックス」が形成され，国の利益が優先されることになる．配置制度は経済の発展だけではなく，国民の生活水準にも影響を与える．第三に，連邦（中央）政府は現在に至るまで地域行政府の権限から企業と外国との商業取引までコントロールする傾向が強いのである．例えば，極東は，日本との隣接地域

表１　ロシアにおける連邦管区

地域	連邦管区	ロシア語表記	中心都市	面積（km²）	人口	人口密度（人 /km²）
中部地域	中央	Центральный федеральный округ	モスクワ市	650,700	38,000,651	58.40
	北西	Северо-Западный федеральный округ	サンクト・ペテルブルグ市	1,677,900	13,974,466	8.33
	南	Южный федеральный округ	ロストフ・ナ・ドヌ市	589,200	22,907,141	38.89
	沿ウオルガ	Приволжский федеральный округ	ニジニ・ノボゴロド市	1,038,000	31,154,744	30.01
	ウラル	Сибирский федеральный округ	エカテリンブルグ市	1,788,900	12,373,926	6.92
	合計			5,744,700	118,410,928	
シベリア	シベリア	Сибирский федеральный округ	ノボシビルスク市	5,114,800	20,062,938	3.92
極東	極東	Дальневосточный федеральный округ	ハバロフスク市	6,215,900	6,692,865	1.08
ロシア全土合計				17,075,400	145,166,731	8.50
日本全土合計				377,873	127,803,261	338.22

出所：ロシア統計国家委員会（http://www.gks.ru/，2004 年 12 月）に基づき筆者作成

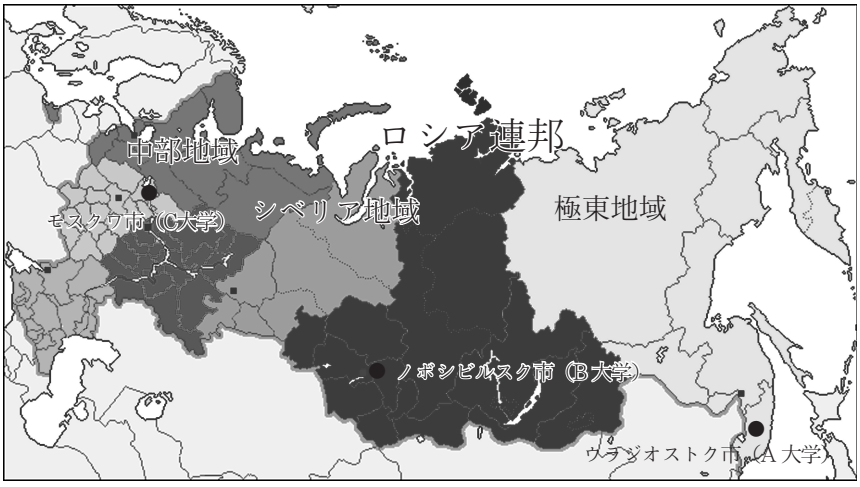


図１　ロシアの地域区分

出所：ロシア統計国家委員会（Goskomstat　http://www.gks.ru/, 2004 年 12 月）

であるため，中部地域やシベリアより長年に渡り日本とのさまざまな交流（貿易を含む）の最大のパートナーである．地理的・経済的な共通点が多く見られるにもかかわらず，中央政府から日ロの地域的な関係は圧力を受けており，政府が外国との商業取引をコントロールする傾向がみられる．このように，ロシア国内における中央と地方の関係は多くの問題を抱えており，その問題はソ連時代に比べれば，大幅に改善されているが，短期間で完全に解決するのは難しいと考えられる．連邦政府と地域行政府の権限区分の問題は今後ロシアの国内政治の深刻な争点の一つになっていくであろう．

このようなロシア国内の状況に，各地域が抱える問題と国際政治の問題が影響し，日ロ関係はソ連時代と比べ，ロシア時代において大きく変容したと言える．例えば，ソ連時代にはソ連政府がシベリアおよび極東と外国との経済関係の成立を抑制し，外国との貿易で得られる利益はすべて中央に吸収され[6]，公式に行われる傾向が強かった．一方，ロシア時代になると，中央管理貿易が急速に減少し（1992 年に 19.3％になる[7]），地方の分権が進み，中央と地方との間の権限の合理的配分が命じられ，各地域で管理を行う傾向が見られるようになった．また，外国（中国，日本，アメリカなど）との直接交流が増加し，大手であるモスクワを通してだけではなく，小中規模，ローカルでも実施されるようになった．

しかし，ソ連時代にも実際は各地域に経済的な背景の差異があったが，ソ連政府は地域ごとに文化，民族，言語，宗教的な[8]相違があることは否定し，全ロシアが一様であると主張した．ソ連解体後，その相違が正式に認められるようになりつつがあるが，現在に至るまで変容が少ないと言える．

II. アンケート調査の概要[9]

調査の目的

この調査の目的は，ロシアの極東 A 大学（以下 A 大学とする），シベリアの B 大学（以下 B 大学とする），中部地域 C 大学（以下 C 大学とする）のロシア人学生がいかなる考えと姿勢を持って日本語を学習しているのか，どのような目標を持ち学び続けるのか，どのような交流パターンがあるのか，そしてその学生は日本語学習と交流を通じ，日本人についてどのようなイメージを持っているのかという情報を収集することにある．さらに，調査結果の分析をもとに，ロシアの各地域における日本語学習，日本との交流パターンの相違と，ロシアの各地域における自己行動パターンと日本の行動パターンへの予測，そしてその背景を明らかにした上で，ロシアの各地域と日本との今後の関係を展望する．

調査対象

アンケート調査はロシアにおける最大規模の三大学（A，B と C 大学，図 1 を参照）に在学中の 1 ～ 5 年生のロシア人日本語学習者を対象に行った．

調査項目

アンケート項目は，パーソナル・データ，日本語学習と交流パターンに関する質問，ロシア人と日本人についてのイメージに関する質問という三つの部分に分かれ，イメージに関する質問は行動パターン，一般のステレオタイプ，日ロ関係の展望についての考えに分かれている．本稿の目的の一つがロシアの各地域における日本との交流パターン，日本人についてのイメージを把握することであるた

表 2　アンケート調査のサンプル票総数，実施期間，実施方法

	A　大学	B　大学	C　大学
サンプル票総数	104 件	105 件	74 件
アンケート用紙の配布（回収）	2004 年 4 月（6 月）	2004 年 9 月（10 月）	2004 年 10 月（11 月）
アンケート調査の協力者	東洋学部長	外国語学部の日本語教師	日本文学科の教師

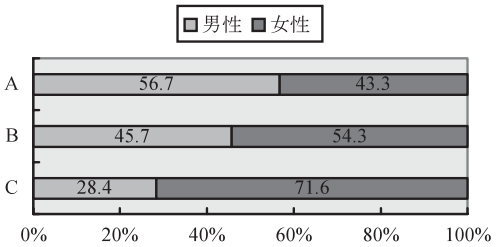


図 2　回答者の性別

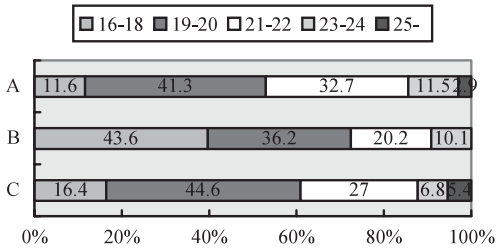


図 3　回答者の年齢

め，日本語学習と交流パターンに関する質問は捕助的な役割を果たすものである．行動パターンに関する質問は具体的な状況の例を挙げ，それぞれの個人の経験に基づいて，特定の状況の中でロシア人と日本人がどのような行動を取るのかを予測するものである．アンケートの質問項目はロシア語で作成した．

調査のサンプル総数および実施時期・方法

各大学で実施したアンケート調査のサンプル票総数，実施期間 / 方法は表 2 の通りである．

アンケート調査のサンプル数は 283 件（内訳：A 大学（極東）104 件，B 大学（シベリア）105 件，C 大学（中部）74 件）であり，パーソナル・データは図 2，3 に示す通りである．

III. 調査結果

本節では，アンケート調査に基づき，(1) ロシアにおける日本語学習および交流パターンの地域による相違，(2) 行動パターン，(3) 日ロ関係を成功に導く施策について分析する．

1．ロシアにおける日本語学習と地域による相違　―日本語学習に関する回答の結果分析―

ロシアの各地域における日本語学習，日本との接触パターンを検討することによって，日本人の考え方および行動様式をどのぐらい理解しているのか判断できるであろう．

表 3 から分かるように，A 大学（極東）では日本語を学習している学生数は B 大学（シベリア）と C 大学（中部地域）の 5 倍，学習時間は 3 ～ 4 倍，大学卒業後に日本語を生かせる学生の比率も高い[10]．また，東洋学部と外国語学部に学習が集中している B，C 大学に対し，A 大学では日本学部をはじめ，経済，歴史，文学部まで広く分布している．

外国語学習時間の割合をみると（図 4 を参照），日本語学習時間は A 大学でもっとも長く，英語と同じぐらいの時間数で学習されているが，英語と日本語以外の外国語はほとんどない．それに対し，C 大学ではその他の外

表 3　A，B，C 大学と日本語学習に関する基本情報

	A　大学	B　大学	C　大学
ロシア国内の所在地	極東地域	シベリア地域	中部地域
日本語を学習している学生総数（およそ）	527 人	110 ～ 115 人	110 人
日本語の学習を行っている学部名	日本学部，経済学部，歴史学部	外国語学部 東洋学部	東洋学部
日本語教師総数（内日本人）	13 人（4 人）	13 人（3 人）	14 人（2 人）
日本語学習時間数 （1 週あたりおよそ）	1 ～ 3 年 生　24 時間（その内　文法 12 時間，会話 6 時間，漢字 6 時間） 4 ～ 5 年 生　20 時間	6 ～ 8 時間（外国語学部） 10 ～ 12 時間（東洋学部）	6 ～ 8 時間
卒業後に日本語を生かす就職ができた卒業生の比率(およそ)	60%	40 ～ 50%	40%

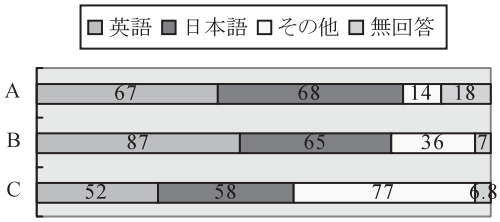


図 4　外国語学習

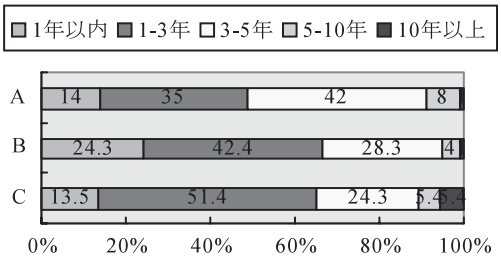


図 5　日本語学習の期間

国語がもっとも多いが，A，B，C 大学のいずれもフランス語（30 ～ 40%），ドイツ語（10 ～ 20%），スペイン語（10%），韓国語，中国語，イタリア語など（5%以下）という順になっている．

アンケート調査は 1 ～ 5 年生を対象に行われており，図 5 からわかるように極東では（A 大学）3 年以上学習している回答者は B，C 大学より多い．

日本文化・日本語への興味，あるいは仕事のためという理由は世界中の日本語学習者に共通する動機であり，ロシアでももっとも代表なものである．

本調査（図 6 を参照）では「就職のため」という理由はロシア全体より極東においてさらに強まることがわかった[12]．その結果は，A 大学における就職率の高さと日本との隣接地域としてローカルの交流が盛んであることから説明できると考えられる．一方，シベリアと中部地域に関しては異なる結果が出た（B，C 大学では「日本文化の知識を得るため」がおよそ 70%）．その原因としては，極東と比べ，中部地域とシベリアでは，ローカルな接触がなく，日本語のニーズが少ないことが

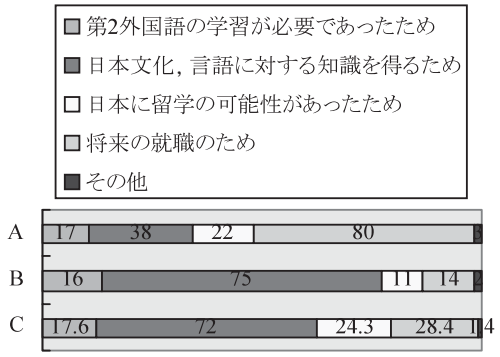


図 6　日本語を選択した理由[11)]

考えられる．特にシベリア[13)]では地理的に日本から長距離であることと航空機の直行便の無いこと，そして日本語および日本との接触のニーズの低さが原因となって，日本語を生かし就職する可能性が低い．一方，本調査の結果，日本の文化と日本語に対する興味はもっとも高い．この原因を説明することは困難であるが，シベリアを訪問する大半の日本人の目的が留学であることと，人的ファクター，すなわち B 大学における日本語指導の方針と日本語教師の影響[14)]があると考えられる．

アンケート調査の結果をみると（図 7，8 を参照），極東は日本と隣接地域であるため，ロシアの他の地域と異なり，文化・ビジネス交流，観光目的で訪問することが多く，日常的に日本人と接触が行われており，日本を訪問した経験があるロシア人はシベリアと中部地域より多いのが現状である[15)]．しかし，いずれの地域でも，訪問経験がある者は短期間の訪問がもっとも多い．

いずれの大学でも，回答者は日本語学習をつづける予定をしており（図 9 を参照），日本へ留学することを希望しているが(図 10 を参照)，その中で極東がもっとも多く，中部地域がもっとも少ないという結果になった．

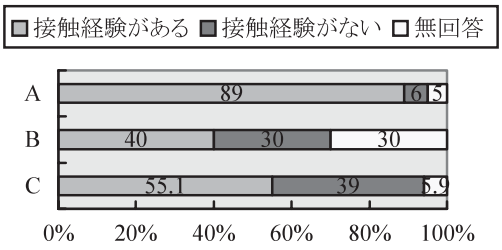


図 7　ロシアでの日本人との接触

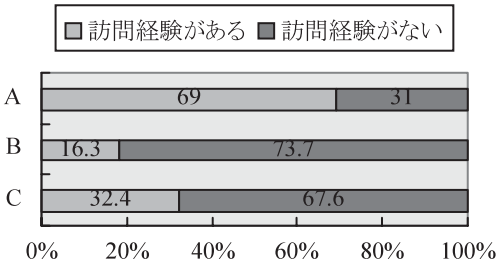


図 8　日本の訪問経験

日本語を生かした仕事を希望するという回答が 75 ～ 86%である（図 11）のに対し，日本語を生かし確実に就職できるという回答は 41.4 ～ 50%になっており（図 12），期待感は大きいが，日本語が必要とされる仕事に就けるとはかぎらない現状と大きなギャップがあるという結果になった．また仕事の内容を見ると，A 大学がビジネス（52%），自営業（40%），通訳（20%）であるのに対し，B および C 大学は通訳（45.5% , 52.7%），ビジネス（23.3% , 25.7%），日本語の教師（11.1% , 12.2%）という結果になった．

既述のように，A 大学では日本語学習がもっとも盛んであり，学習期間がもっとも長く，日本人との接触が多く，日本語を生かす仕事を希望しており，それは極東のニーズに答えるものである．従って，ロシア地域の中で，日本と交流のポテンシャルがある地域は

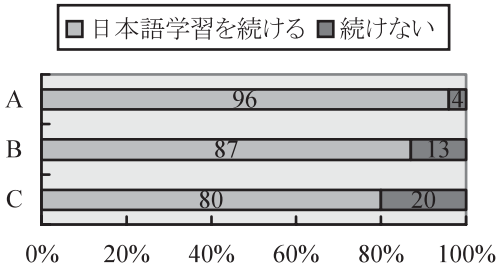


図 9 「日本語の学習を続ける予定ですか」に対する回答の結果分析

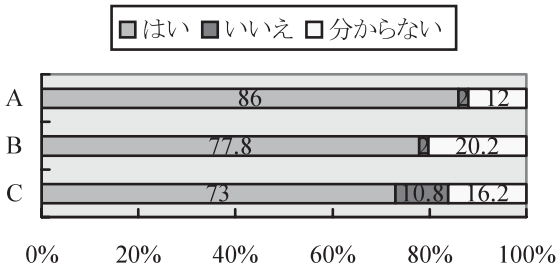


図 10 日本の大学で研修および進学を望みますか」に対する回答の結果分析

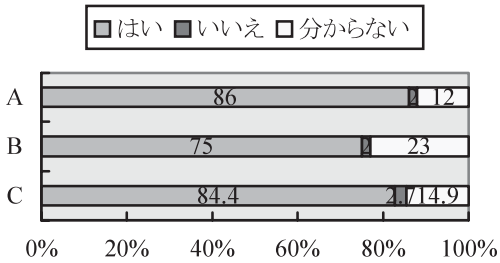


図 11 「日本語を将来に職場で生かしたいですか」に対する回答の結果分析

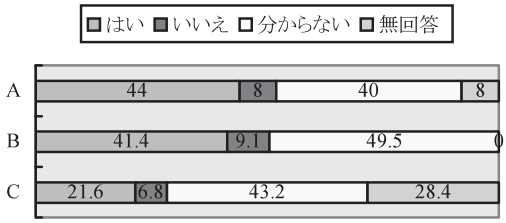


図 12 「日本語を生かす仕事に就ける保証がありますか」に対する回答の結果分析

極東であり，日本の文化に対する興味はシベリアでもっとも高いが，接触は少なく，ニーズが低いと言える．中部地域では，日本語には特別な興味がなく，その他の言語と同様に扱われているが，接触の機会は極東ほど多くなく，シベリアのように少なくもない．

次節では，上述のような日本語学習経験と日本人との接触経験があるロシアの各地域におけるロシア人の自己行動パターンと日本人への予測を見てみよう．

2．日ロ行動パターンとロシアの各地域における相違　―行動パターンに関する回答の結果分析―

本節では，具体的なシチュエーションを取り上げ，ロシア人学生から見たロシア人と回答者の予測による日本人の行動パターンについての回答を分析する．

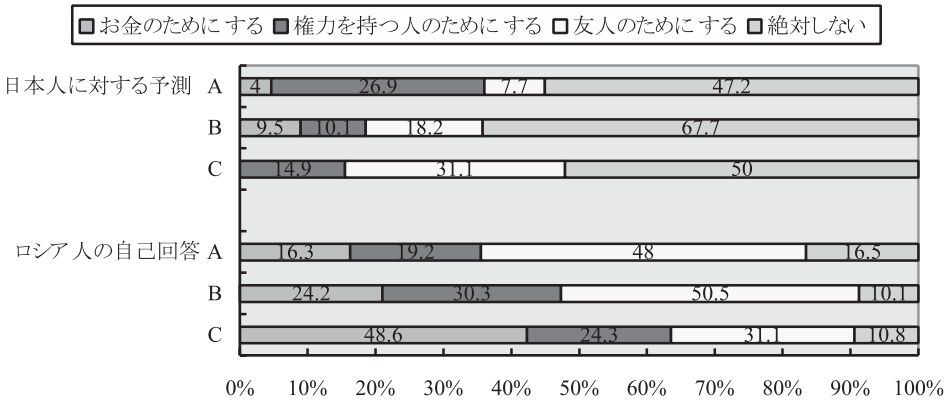
ロシア極東の学生におけるロシア人の行動パターンと日本人の行動パターンについての予測を以前に比較した（ロシェコワ 2005）が，本稿ではシベリア，中部地域のデータの分析（異なる文化の背景を持つ者）を加えるとともに，ロシアの各地域における日本語学習と行動パターン（ロシア人と日本人に対する予測）を比較する．

行動パターンにはさまざまな要素があるので一度にすべてを検討することができないが，本稿では，前回の分析（ロシェコワ 2005）と同様に，ロシア人学生から見たロシア人と日本人のイメージについて（1）法律と社会的ルールに対する意義，（2）帰属集団に対するロイヤルティー，（3）私と公，（4）仕事の様式，（5）国際ビジネス開発に関する思考，という 5 つの要素に分けて分析する．

図 13

質問　「あなたは税関機関で働いています．場合によっては，関税違反をすることもあり得ますか．」

回答分析　　（単位：%）



1）法律・社会的ルールに対する意義

日ロ関係（特に貿易）に携わっている日本人の担当者によると，ロシアにおける法律の変容，ロシアの各地域および担当者による法律の解釈の相違，そして法律違反は，長年に渡りロシアと日本との商業取引における最大の問題となっていると指摘する．ここで違法行為と反社会行為についての調査結果を見てみる．

違法行為の可能性あるいはその行為の動機は図 13 からわかる．その行為の可能性をみると，「日本人は絶対しないだろう」という回答はいずれの地域でも 47.2（極東）～ 67.7%（シベリア）となっており，「ロシア人は絶対しない」という回答は 10.1（シベリア）～ 16.5%（極東）という結果になった．つづいて，動機について見てみよう．ロシア国内をみると，「お金のためにする」という回答は中部地域がもっとも高く（48.6%），ほぼ半分を占めており，その他の地域の 2 倍以上となっている．日本人に対する予測をみると，「お金のため」と「権力を持っている人のため」のいう 2 つの回答を合計すると，極東では半分近くになっており，その他の地域の 2 倍以上になっている．また「友達のためにする」という回答は中部地域におけるロシア人と日本人への予測は 31.1%ずつになったのに対し，極東とシベリアのロシア人の自己回答は 50%前後，日本人への予測は 20%以下になった．

次に，法律上に決まりがない場合，社会のルールに対し，どのように行動するかを見てみよう．図 14 からわかるように，ロシア人の自己回答がいずれの地域でも「息子を採用する」傾向が強い（70 ～ 80%）のに対し，日本人に対する予測には「もう一人を採用する」傾向の方が強い（52.7 ～ 66.3%）という結果になった．

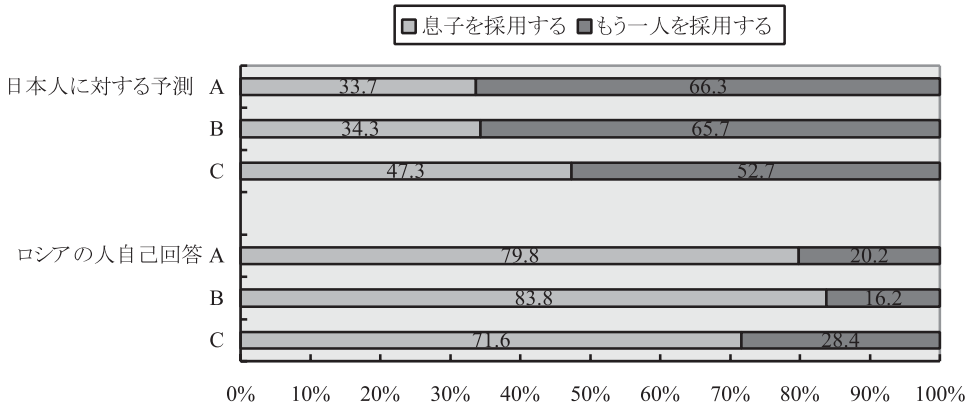
2）帰属集団に対するロイヤルティー

Hall（1977: 91）は文化が集団主義（ハイ・コンテクスト）と個人主義（ロー・コンテクスト）の二つに分かれ，文化の中で両方のメッセージが使われると同時に，特定の文化はどちらかの特徴を多く持つという指摘をし

図 14

質問「あなたは 200 人の社員を持つ会社の社長です．このたび新しく社員を一人採用するために試験を行いました．応募者は 2 人おり，そのうち 1 人はあなたの息子です．しかし試験の結果はもう 1 人の応募者の方が良く，あなたの息子はわずかの差で彼に劣っていました．担当の人事課長はどちらを採用しても構わないと言っています．どちらを採用しますか.」

回答分析 （単位：%）



ている．ロシア人と日本人について集団主義か個人主義，すなわち帰属意識と個人としての意識のどちらが強いのかが図 15 からわかる．大きく言えば，ロシア人の自己回答ではいずれの地域でも「転職する」傾向が強い（63.4 ～ 73%）のに対し，日本人に対する予測は逆になり，「転職は考えない」と「能力が不足している」という回答を合計すると 63.2 ～ 76.8%になった．また，ロシア人の自己回答にはほとんどないが，日本人に対する予測でもっとも多い回答は「私の能力が不足している」という回答であった．これは自分を相手より低くし，へりくだる傾向にあるという日本文化の特徴に由来するものと考えられる．そして，前述の項目への回答と同様に，極東とシベリアの回答が互いに近く，中部地域と異なる点が多く見られる原因として，集団に対する帰属レベル，公と私の割合などのロシア西部と東部の相違が考えられる．

3）公と私

文化により公（仕事）と私（家族，趣味，友人）の区別が異なるが，日ロの傾向は図 16 からわかる．ロシアの各地域間で差が大きいが，極東と中部地域が類似しているのに対し（「公的」17.3 ～ 23%，「私的」43.2 ～ 49%），シベリアは異なるケースがある（「公的」35.4%，「私的」12.1%）．そのかわり，シベリアは「私的であり公的である」という回答が 50%以上という結果になり，自己決定が重要になるが，義務感が強いと言える．この原因は，シベリアと海外との接触は中部や極東より少ないので，ソ連時代の集団主義（社会主義）の影響がまだ残っている点にあると考えられる．日本人に対する予測はロシアのいずれの地域も類似をみせており，「公的」である傾向がかなり強かった（68.9 ～ 79.8%）．これは，日本人の行動パターンにおける「公」と「私」についてのロシアで従来から定着しているイメージにより解釈する傾向があるこ

図 15

質問 「あなたは 3-5 年間この中企業に勤めていますが，あまり評価をされず，昇格もなければ，昇給もありません．どの様な行動を取りますか.」

回答分析　（単位：%）

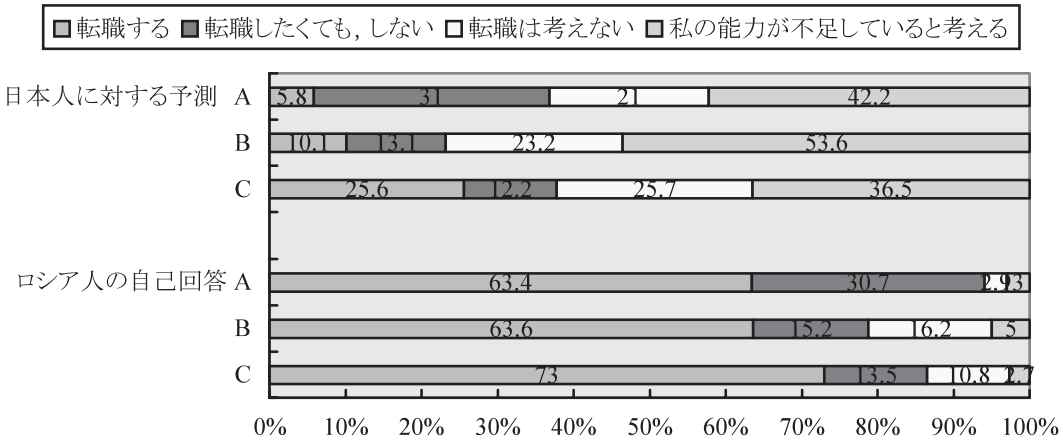
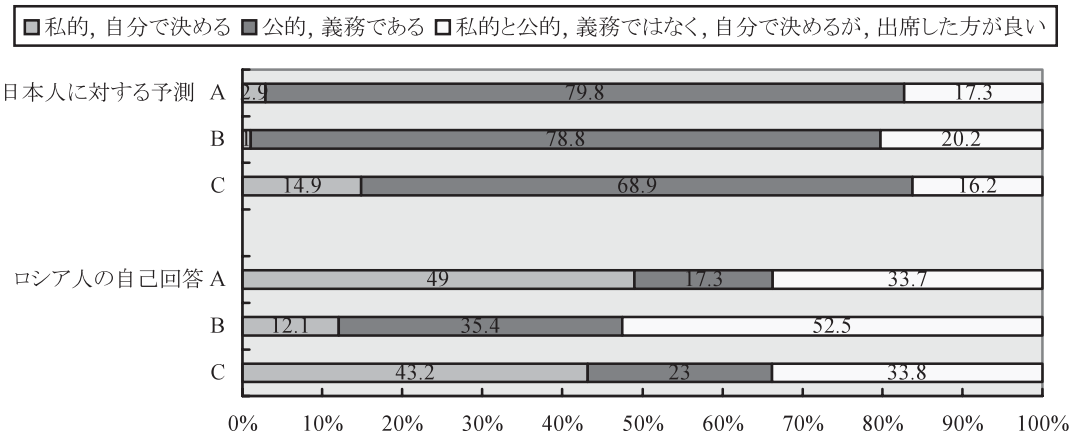


図 16

質問 「あなたは海外と取引があるロシアの会社の一般従業員です．海外の取引先相手があなたの会社を訪問しますが，その取引相手と同僚達と共に毎日午後 6 時以降に食事に行くことになっています．それは公的な会食と考えますか，私的なものと考えますか.」

回答分析　（単位：%）



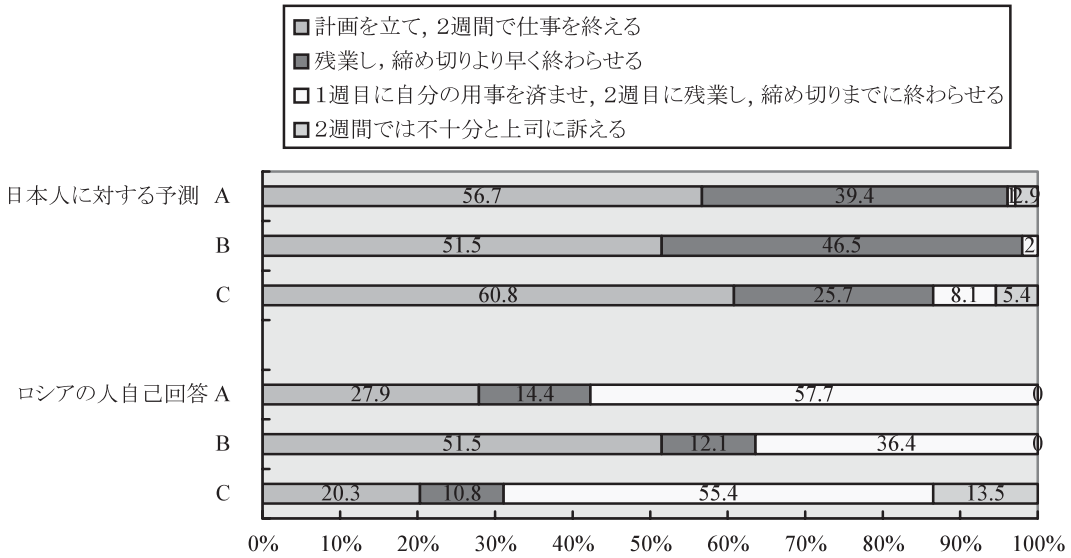
とが原因であろう[16]．また，極東とシベリアでは「私的」という回答がほぼゼロであるのに対し，中部地域は 14.9%まで上がっており，中部地域における日本人に対するイメージは多少異なるという結果になった．

4）仕事の様式

職場での仕事の進め方，行動パターンなどの社風は各文化の特徴が反映される．日本・ロシア的な仕事パターン，つまり仕事の進め方（図 17），職場における人間関係（部下の上司に対する態度(図 18)，上司の部下に対す

図 17

質問　「2 週間で発表することになりましたが，あなたはどのように準備を進めますか.」
回答分析　（単位：%）



る態度（図 19），客に対する態度，ウチからソトに対する態度（図 20））を具体的なシチュエーションを通し見てみよう.

仕事の進め方を比較するため図 17 を見てみよう．ロシアの各地域をみると，極東と中部地域の間に類似点が多いが，シベリアは「計画を立て，2 週間で仕事を終える」という回答は 2 倍となっている（51.5%）．この原因として，シベリアの人々は義務感が強いこと，いわゆる，シベリアン・キャラクター[17]（計画を立て，冷静にステップ・バイ・ステップに進め，計画通り終えるが，目標より高い結果を達成することはほとんどない）が挙げられる.「2 週間では不十分と上司に訴える」という回答は極東，ならびにシベリアにはないが，中部地域は 13.5%であった．日本人に対する予測をみると，いずれの地域でも類似しており「計画を立て，2 週間で仕事を終える」という回答は 50%以上（シベリアの自己回答と同様な数字），「残業し，締め切りより早く終わらせる」という回答は 25.7 ～ 46.5%となっている.

部下の上司に対する態度の類似と相違がわかるよう図 18 を見てみよう．極東とシベリアの自己回答はほぼ同様であるが，中部地域の自己回答では「遅くまで残業し，忙しさをアピールする」という回答率が他の地域の自己回答と日本人に対する予測と比べ 2 倍となっているが，全体的な割合が低い．また，シベリアにおける日本人に対する予測では，「通常より努力する」という回答は 54.4%にのぼり，シベリアでは「働きもの」という日本人に対するイメーの傾向があると言える.

上司の部下に対する態度は図 19 からわかる．ロシアの人自己回答については，極東で「一人で結論を出す」（64.4%）と「上司の指示を求める」（13.5%）の間の差がもっとも大きかった．大きく言えば，ロシアでは一人で

図 18

質問 「社長がオフィスに来た場合，通常と作業様式が変わりますか.」
回答分析　（単位：%）

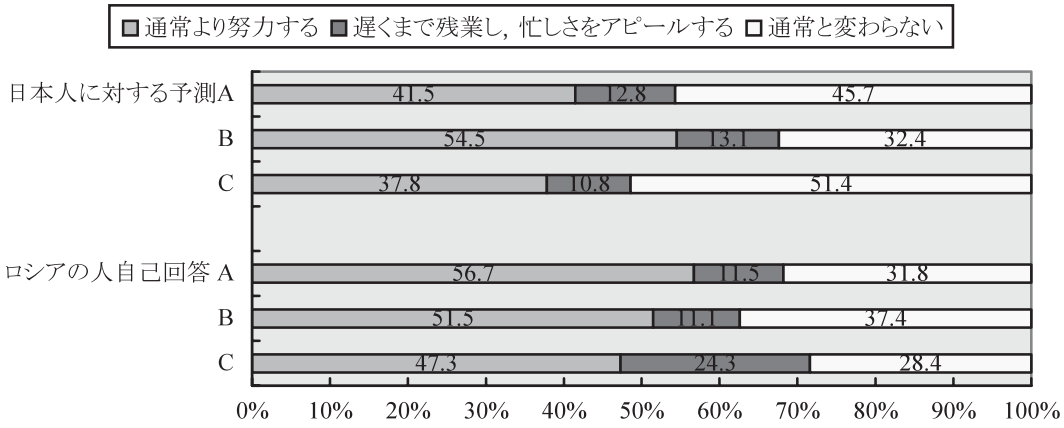
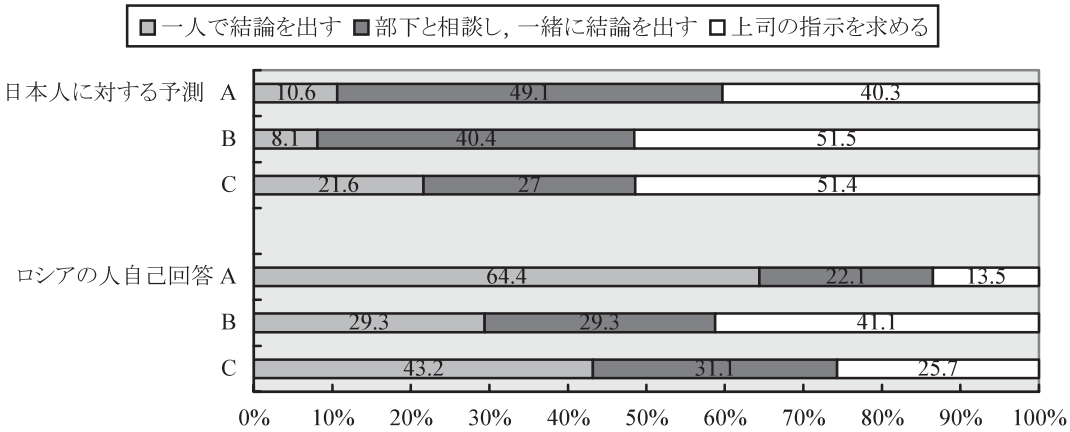


図 19

質問 「あなたは副社長です．ある問題に結論を出す必要があり，そのための権限は十分にあります．あなたはどうしますか.」
回答分析　（単位：%）

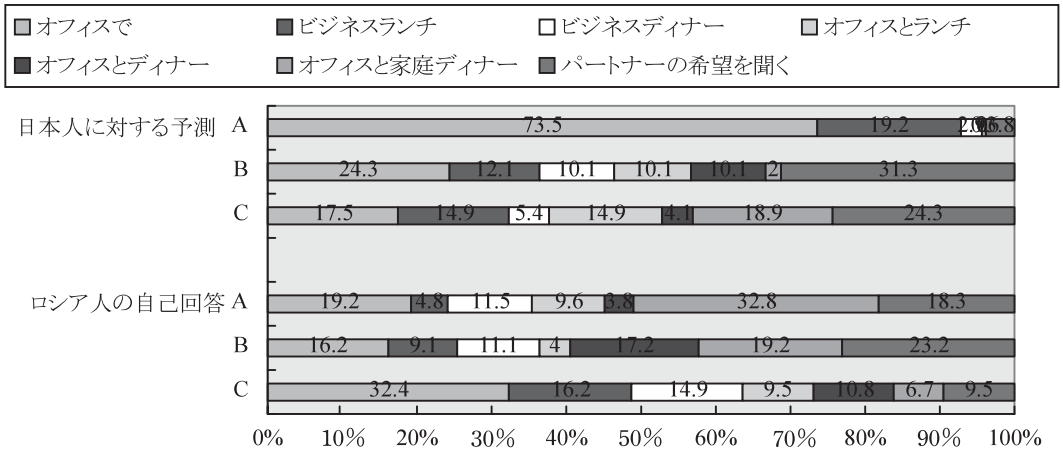


結論を出す傾向が強いのに対し，日本人に対する予測では上司の指示を求める傾向が強い．しかし，中部地域における日本人に対する予測は「一人で結論を出す」という回答は他の地域と比べ 2 倍になっており，それは中部地域が西洋との交流が他の地域より多く，西洋の行動パターンを受け，日本人にも適用されると考えるからであろう．また，シベリアでは，「一人で結論を出す」という回答が他の地域と比べ低いが，その原因として，シベリアは極東と中部地域より海外との交流が少ないため，まだ集団（社会主義）的に行動および決定をする傾向があることが考えられる．

客に対する態度，ウチからソトに対する態度について，図 20 を基に比較する．ロシア人の自己回答をみると，一つの回答に大きく

図 20

質問「海外のパートナーとのビジネス交渉をどこで行いますか.」
回答分析　（単位：%）



偏ることがなく，各回答の比率は似ているが，中部地域は「オフィスで交渉する」ことが多く，ヨーロッパとアメリカの影響があると考えられる.「オフィスと家庭ディナー」という回答がすべての地域にあるが，極東の回答者の中でもっとも多く（32.8%），次はシベリア（19.2%），最後は中部地域（6.7%）という順になる．ビジネスのパートナーを家庭に招き，夕食を共にするという習慣は，ロシアで広く行われていたが，中部地域では減少し，極東地域にはまだ強く残っていると言える．日本人に対する予測は「オフィス」が極東で 73.5% に昇り，ロシアで伝統的に好まれている「家庭ディナー」という回答率はもっとも少ないが，中部地域に多少ある．また，中部地域では「オフィスで」という回答はもっとも低く（17.5%），各回答が混在している．その原因として，中部地域は他地域より国際ビジネスによって，さまざまな国と接触し，さまざまなビジネス交渉スタイルを受け入れていることが考えられる．

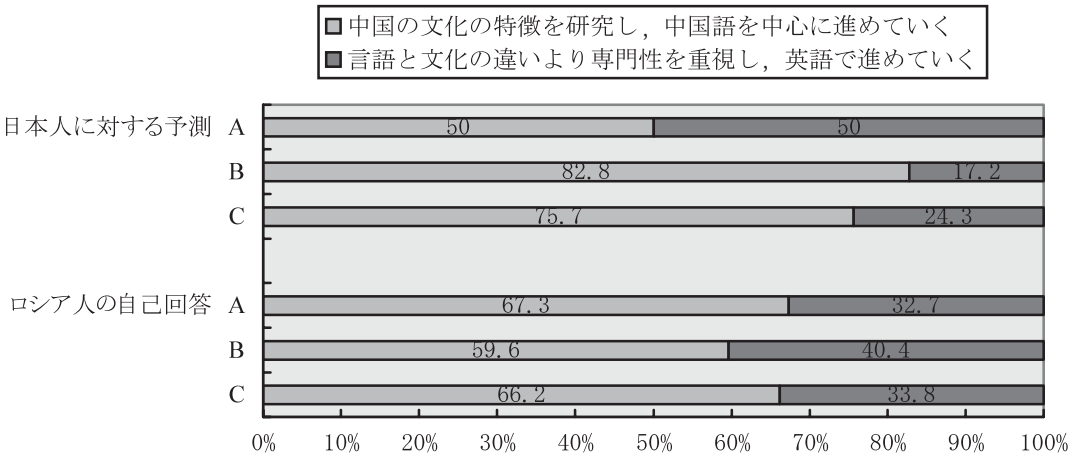
5）国際ビジネス開発に関する思考

グローバリゼーションが進展する中，国際ビジネスの方針が課題になっている．ここで，同質化するのか，相手の文化を重視するのか，どちらの傾向の方が強いか，回答をもとに分析する．

ロシア人の自己回答をみると（図 21 を参照），相手の文化を重視する傾向があるとわかる．日本人に対する予測をみると，その傾向が極東を除き，さらに強くなる．それは，上述のように，シベリアでは海外との接触が少なく，ニーズが低いため，従来のイメージが定着している．また，シベリアを訪問する日本人はロシア語に興味を持つ人がほとんどである．それに対し，極東地域では，接触が多く，文化的な興味より，専門的な興味の方が強い日本人が多く，従って，ロシア語およびロシアの文化を深く理解していない人が多い．しかし，実際に日ソ・日ロビジネスに携わっている人々によると，ソ連時代には相手の言語を利用することが多かったが，現在は英語へ切り替える傾向（特に中部地域）が見

図 21

質問 「あなたは国際的にビジネスを始め，これから中国に参入します．最初にとる行動は何ですか」
回答分析　　（単位：%）



られるという．本調査は，回答者が学生であり，ビジネス実務の経験がないため，不適当な判断をした結果，このような回答になったのであろう．

3．一般的ステレオタイプ，その変容と日ロ関係を成功に導く施策　―自由記述欄の回答の結果分析―

本節では（1）ロシア人回答者のオート・ステレオタイプ（自国の人に対するステレオタイプ）およびヘテロ・ステレオタイプ（日本人に対するステレオタイプ）とその変容，（2）日ロ関係を成功に導く施策という 2 つの要素について自由欄の回答の結果を分析する．

1）一般的ステレオタイプと接触後のその変容

ロシア人回答者からみたロシア人と日本人のイメージについて自由記述欄に回答させた．ロシア人の自己回答のデータを分析したところ，ロシア全地域において自己イメージにかなりの類似が認められ，ソ連時代から言語や文化などにおける統一化政策の影響であると考えられる．もっとも多かった特徴の順に並べると「すぐれた（才能ある）人」，「不屈な人」，「優しい人」，「怠け者」という結果になった．

日本人に対する予測は，日本人との接触前のイメージと接触後のイメージに二つにわかれたが，変化したのか，変化したとしたら，どのような傾向があるのかが図 22 からわかる．

接触[18]前のイメージを多かった順に地域別に並べると次のような結果になった．

極東：「働き者」，「集団の利益を優先する」，「法律を守る」，「真面目」

シベリア：「働き者」，「法律を守る」，「集団の利益を優先する」，「誠実」

中部地域：「集団の利益を優先する」，「法律を守る」，「誠実」，「働き者」

シベリアと極東は共通点の方が多いが，中部地域と順位が多少異なる．その原因として

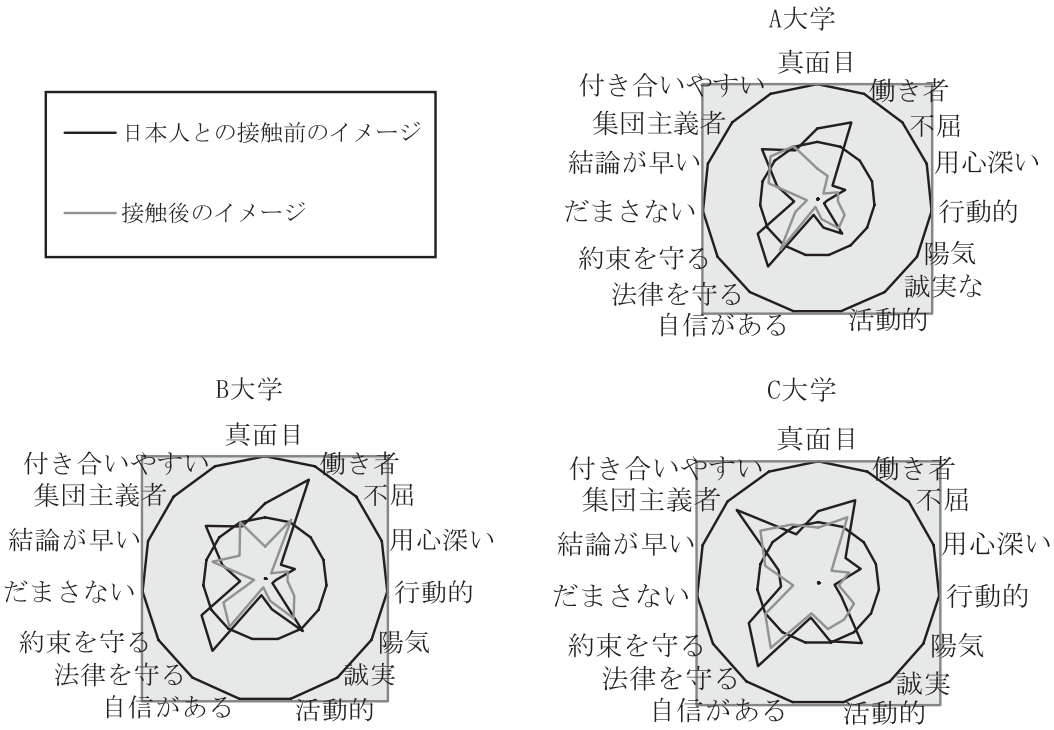


図 22　日本人に対するイメージ

は中部地域との接触条件が多少異なっているためと考えられる．

接触後のイメージはかなりの変化があり，「働き者」というイメージは激減し，「誠実」というイメージは多少減った．もっとも少ないイメージは「自信がある」と「行動的」であった．この傾向はロシアのすべての地域に見られたが，シベリアでは変化がもっとも大きく，中部地域はもっとも少なかった．

2）日ロ関係を成功に導く施策

このアンケート調査の最後に，日ロ関係を改善するために何をすればよいかという質問をした．もっともよく出た回答から順に地域別に並べてみると以下のようになる．

極東

・国際交流だけでなく，ローカル交流に力を入れる（ことわざ「遠い親戚より近くの他人」）．
・合弁企業，経済関係を拡大する．
・お互いに妥協する．
・日本のビジネス様式，考え方を理解することにつとめる．

シベリア

・お互いのメンタリティーや文化的な習慣，特徴を学習する．
・両国間の研修・留学のチャンスを増加させる．
・日本語学習の拡大と日本人との接触機会を増加させる．
・ロシア国内における政治的・経済的な問題を解決する．

中部地域

・ヨーロッパとアメリカだけではなく，日本

へも関心を持たせる．さまざまな文化に対して柔軟性を育てる．

・外交関係を解善し，さまざまな面で交流を拡大させる．

以上をまとめると，極東では隣人としての関係の強調，シベリアでは日本語学習と接触機会の増加，中部地域は外交問題を解決した上で，アメリカとヨーロッパと同様に交流することが課題として挙げられる．

おわりに

本稿では，ロシアの三つの地域，すなわち極東，シベリアと中部地域にある最大規模の三つの大学で実施したアンケート調査に基づき，ロシアの各地域における相違点と共通点，日本との交流パターン，日本語学習，日本人に対するイメージおよび行動パターンの予測について考察を行ってきた．

本調査の回答者である学生達はソ連解体の直前に生まれた者が多く，社会主義の教育を経験したこともないため，新しい時代の考え方を持っていると言える．

しかしながら，ロシアの各地域には政治・経済的な相違があり，ソ連からロシアへの移行に伴って変化が生じたが，中央と地方の関係にソビエト中央主権主義（中央集権体制）の影響がかなり残っていると言える．この問題は短期間での解決が難しく，今後ロシア国内政治の深刻な争点になっていくであろう．要するに，現在に至るまでロシアでは三つの地域の関係は平等であったというより，地方（極東とシベリア）対中央（中部地域）の関係の方が強い傾向があり，地域としては極東とシベリアの状況が類似している．このようなロシアの各地域の特徴は日本との接触に影響を及ぼす．

本調査の結果から，ロシアの各地域と日本との交流パターン，日本語学習，ならびに日本人への予測をみると，地域的な差があると指摘できる．例えば，極東は日本語学習および日本に対する興味が高いだけでなく，隣接する地域であるため長年にわたり交流が深く，ニーズに答えるため，今後も文化交流，中小ビジネス，資源に関連する現地企業などのさまざま分野における拡大が期待される．接触の機会，アジア的および隣人としてのメンタリティーの類似点が多いため，日本への理解はかなり見られるので，接触はよりスムーズに行われるであろう．それに対し，シベリアでは日本語および日本に対する興味が深いものの，接触の機会はまだ少なく，交流は困難であるため，経験に基づく理解が不足しており，伝統的イメージがまだ定着していると言える．しかし，極東とシベリアは日本との接触条件が異なるとしても，その二つの地域の間に類似点がよく見られ，日本担当者のC氏[19]によると，それは同様な東洋的メンタリティー[20]を持つからであるという．ただし，シベリアの場合，例外もあり，その例としては「公」と「私」の関係（図16を参照，（「自分で決める」という回答がもっとも低い）および仕事のパターン（図17を参照，（「計画を立て，2週間で仕事を終える」という回答がもっとも多い）が挙げられる．その原因としては，シベリアが中部地域や極東に比べ外国との接触が少ないため，ソ連における集団主義の考え方まだ強く残っているためと考えられる．全体的には，極東とシベリアにおける考え方は近いが，シベリアは極東と中部地域の中間の数字が出ることが多い．また，中部地域に関しては日本語学習および日本に対す

る興味は弱いが，シベリアより接触機会が多いので，現実的なイメージに近いと言える．しかし，中部地域のロシア人における自己回答と日本人に対する予測をみると，双方の間にギャップが大きいので（図 13「お金のためにする」の自己回答－ 44.7%，日本人への予測－ 9.5%；図 17「計画を立て，2 週間で仕事を終える」の自己回答－ 20.3%，日本人への予測－ 60.8%など），知識があるものの同様のメンタリティーを想定しているとは言いがたい．さらに，中部地域では，日本よりヨーロッパへ関心を向けているので，関係が急速に，大幅に拡大する可能性は低いと言えよう．従来から極東とシベリアを含むロシア東部が日本との経済的な交流を中心にさまざまな交流において重要性が大きかった．そして，それはソ連解体後に実現された地方行政府の変容やローカル経済の自律性により急激的に発展できるようになったと言える．

ロシア人の回答者は，上述のような日本人および日本人の行動パターンについてのイメージを持つが，本稿では実際の日本人のオート・ステレオタイプを分析しなかったため，日本人の場合は本結果と一致しない可能性があり，本稿における日本人の行動パターンはあくまでもロシア人による日本人イメージとして位置づけたい[21]．本稿に取り上げたロシア人学生の回答をみると，地域により差があるが，全体的に従来から存在している日本のイメージを持っている傾向が強いと言える．その理由は，日本人との接触の機会がまだ少ないことと，回答者が学生であるためビジネスの場における行動パターンについて個人の経験に基づく知識が浅いからであると思われる．学生ではなく，日本人との接触機会があるロシアの社会人における自己行動パターン，そして日本人の行動パターンの予測を比較すると結果は異なるであろう[22]．

本調査からわかるように，接触の経験によりイメージが変化する．これからより多く，より多角的に接触することにより互いのイメージを修正し，より現実的になると思われる．ロシアにおける日本語学習および日本の伝統的な文化に対する深い興味が出発点となり，今後日ロ関係が拡大していくであろうと期待される中，将来性を感じられる．本稿により，日ロ対人関係の横築に欠かせない行動パターンの理解が深まることが期待される．

注

1）本稿は筆者の「日本人とロシア人の行動パターンについての考察―ロシア東部を中心に―」（A Study on Russian and Japanese Behavioral Patterns ― With a Focus on the Eastern Russia ―）のシリーズの第二パートである．第一は日本語学習を行っている極東のロシア人学生の行動パターンと日本人に対する予測（「ロシアにおける日本語学習と日本人に対するイメージについて―極東地域を中心に―」，『ククロス』2005: 103-129），第二は日本語学習を行っている極東・シベリア・中部地域のロシア人学生の自己行動パターン，日本人の行動パターン予測とロシアのそれぞれの地域による相違（本稿），第三はロシア極東を中心に，日ロ研究に関わっているロシア人，日ロビジネスに携わっているロシア人，日本語学習を行っているロシア人学生の自己行動パターンとかれらの日本人の行動パターンの予測を比較する．

2）http://www.jetro.go.jp/se/jrussia/ru/whats.html

3）ロシア東欧貿易会の統計に基づく（『ロシア東欧貿易』調査月報 4.2004: 81）．

4）ロシア連邦関税局 http://www.customs.ru/

5）ロシア国内は地理的，経済的に多様であり，ソ連時代から地域別に分析することになっていた．ソ連解体後，西部，シベリアと極東の三つの地域に区分された（詳細は本稿の第 I 節を参照）．

6）中央管理貿易と呼ばれる．1988 年にロシア

における総輸出額の 94.4%が中央管理貿易によるものであった（北海道新聞情報研究所のデータによる）.

7）上掲書

8）ソ連時代には，すべての宗教が法律により禁止されていた.

9）筆者がA大学での同様項目のアンケート調査をもとに作成した論文（ロシェコワ 2005）も参照.

10）しかし，就職率に関する正確な統計が存在しないので，単純な結論は難しい.

11）複数回答可能

12）ロシア全体の場合は1位は「就職のため」（77.3%），2位は「日本文化の知識を得るため」（73.1%）である．世界全体での日本語学習の理由の1位は「日本文化の知識を得るため」（79.2%），2位は「就職のため」（76.2%）である（国際交流基金 2000: 176）.

13）シベリア（特に，シベリアの中心都市であるノボシビルスク市）では，第二次世界大戦後，ドイツ人が大勢残留したため，現在までドイツ語学習，ドイツとの接触は盛んになっている.

14）ノボシビルスクの日本語と日本文化会の会長は，人生の半分を日本と中国に在住し，その言語と文化を分布させることが自分の便命だと考えているそうだ.

15）交通便にも原因があると考えられる．例えば，日本〜極東に関しては新潟〜ハバロフスク，青森〜ハバロフスク，新潟〜ウラジオストク，富山〜ウラジオストクなど航空機の直行便があり，いずれも週2〜3回，飛行時間2時間前後であるが，日本〜シベリアは直行便がなく，時期，曜日によるが，片道で24時間（乗り換え時間を含む）から一泊二日，二泊三日かかる．中部に関しては，東京〜モスクワは毎日，飛行時間およそ9時間の直行便，大阪〜サンクト・ペテルブルグも直行便があり，モスクワ市まで近距離で，乗り換えが可能である.

16）日本では日常生活上でも（ロシアと異なり，通り，広場，町，台風などに有名人の名前をつけないなど），仕事上でも（個人と会社の携帯の無区別，回覧印および集団責任，自分の仕事の進み具合は関係ないノー残業デー，プライベート情報を共有される傾向など）「公」の割合の方が大きい.

17）シベリアン・キャラクターはシベリアの気候（予測外の変化が少ないので，予報しやすい）により作られたと，ロシア人の間では一般的な話として知られる.

18）接触とは，主に日ロ文化の交流（ホームステイ，留学など）と観光，中小ビジネスを意味する.

19）規模1000人以上のロシア木材加工企業の日本向け販売マネージャー，35才.

20）集団的な行動，チームワークの思考など.

21）日本人のオート・ステレオタイプは今後の課題になる．筆者の見解としては，ロシアと同様に日本も変化が多いと思われるが，例としては従来の日本的経営や終身雇用制は崩壊，転職を繰り返す者の増大から生活スタイルの変容まで数々挙げられる.

22）今後，本稿からわかったように，接触がもっとも多い，将来的に拡大すると思われる極東を中心に，本稿に取り上げている日本語学習を行っているロシア人学生と日ロ研究に関わっているロシア人と日ロビジネスに携わっているロシア人（要するに接触の内容，帰属する集団のそれぞれの特徴による異文化との接触の相違に注目する）の自己行動パターンとかれらの日本人に対する予測を比較する予定である.

参考文献

ロシア語

Anarina, Анарина Н.Г. 1993. *Три статьи о японском менталитете*. Москва.

Arskaya, Арская Л. Г. 1991. *Японские секреты управления*. Москва.

Goskomstat, *Российский статистический ежегодник : статистический сборник. Государственный комитет РФ по статистике.* 2003. Москва .

Dalnii Vostok Rossii, Дальний Восток России : региональные изменения в условиях глобализации. 2003. Sapporo.

Ichioka,Итиока М. 2004. *Региональная дипломатия в Японии-Международный опыт Ниигата*. Владивосток.

Istoria Sibiri, *История Сибири* •1972. ред. М.А. Лаврентьев, А.П. Окладников, Новосибирск: Сибирское отделение наук СССР.

Minakir, Минакир П.А. ред, 1995. *Дальний Восток России : экономическое обозрение*、Хабаровск.

Pronnikov, Пронников В.А., Ладанов И.Д. 1989.*Управление персоналом в Японии*. Москва.
Pronnikov, Пронников В.А. 1996.*Японцы*. Москва.

日本語

荒井信雄．2003.「中央と地方の関係」『ロシア極東―市場経済化の 10 年』北海道新聞情報　研究所.
安村似志（編）．2000.『西シベリアの歴史と社会』中京大学社会科学研究所.
大島梓・小川和男．2000.『最新・ロシア経済』日本評論社.
国際交流基金『海外の日本語教育の現状―日本語教育機関調査　1998―』 2000. 日本語国際センター.
田中信行．1999.『さまよえるロシア：ソ連崩壊後のシベリア，中央アジアで何が起こったか』リーベル出版.
富山栄子．2003.「ロシア極東の経済と日ロ関係の現状と展望」『環日本海研究年報』10: 40–63.
西田司．1986.『異文化適応行動論』手島正治 .
北海道新聞情報研究所．2003.『ロシア極東―市場経済化の 10 年』北海道新聞情報研究.
ロシア東欧貿易会 . 2004.『ビジネス・ガイド・ロシア　2004–2005』ロシア東欧貿易会.
ロシア東欧経済研究所（編）. 2000.『ロシアの地域：中央と地方』ロシア東欧経済研究所.
ロシア・東欧学会 . 2001.『ロシア・東欧研究：ロシア・東欧学会年報』第 30 号.
ロシェコワ　O．2005.「ロシアにおける日本語学習と日本人に対するイメージについて―極東地域を中心に―」『ククロス』名古屋大学大学院国際開発研究科，国際コミュニケーション専攻　第 2 号 103–129.
渡辺文夫．2002.『異文化と関わる心理学　―グローバリゼーションの時代を生きるために―』サイエンス社.

英語

Collins D. 1991. *Siberia and the Soviet Far East*. Oxford
Ferraro G. 1990. *The Cultural Dimension of International Business*. Prentice Hall
Jakobovits L., Gordon B. 1974. *The context of foreign languge teaching*. Rowley, Massachusetts: Newbury House Publishers.
Hall E. 1977. *Beyond Culture*. New York: Anchor press, Doubleday.
Smith P. B., Bond M. H. 1999. *Social psychology across cultures*. London: Prentice Hall.
Triandis H. 1994. *Culture and social behavior*. New York: McGraw-Hill.

その他
定期刊行物
『ロシア東欧貿易』調査月報　ロシア東欧貿易会
『ロシア統計年版』ロシア統計国家委員会作成
『ロシア連邦の外国貿易通関統計』年報
新聞
Pravda, Правда: 2004 年 1–12 月
Rossiisakaya gazeta, Российская газета: 2004 年 1 – 12 月
ホームページ
Japan Today, Япония сегодня http://www.japantoday.ru/　2004 年 12 月
Cremlin, Кремль www.kremlin.ru　2004 年 12 月
Strana, Страна http://www.strana.ru　2004 年 12 月
GTK Russia, Внешняя торговля http://www.customs.ru/ru/stats/stats/　2004 年 12 月
外務省　http://www.mofa.go.jp/mofaj/index.html　2004 年
日本貿易振興機構 http://www.jetro.go.jp/ove/sap/kyokuto/　2004 年 1–12 月，2005 年 1–3 月
ロシア東欧貿易会　http://www.rotobo.or.jp　2004 年 1–12 月，2005 年 1–3 月
ロシア統計国家委員会（Goskomstat）の各種統計 http://www.gks.ru/　2004 年 12 月
在ロシア日本大使館　http://www.embjapan.ru/　2004 年 12 月